

せと川 里の楽校 夏休み子どもキャンプ 報告 8月3日から6日

NPO法人里の楽校(協力団体:瀬戸川フォーラムほか)は、「せと川里の楽校2006夏休み子どもキャンプ 忍者修行(絆を結ぼう!)」を8月3日~6日までの4日間、藤枝市宮原、助宗、瀬戸谷(中里/市ノ瀬)地区で小学生60名、スタッフ13名、学生リーダー35名、ジュニアリーダー8名、ボランティア25名の総勢141名を集めて「河川とその流域の豊かな自然と文化にたっぷり子ども達を浸し、たくさんの里・食農体験や交流を通じて、逞しく感性豊かな子どもの育成を目指すこと」をねらいとして行いました。

このキャンプも今年で8回目となりますがリピーターも多く、毎年テーマを決めてストーリーを作って行うため準備に時間も掛かり学生スタッフも眠れない日々がキャンプ中も続きます。しかし、最後の日のこどもたちの笑顔や涙を見るとスタッフもやりごたえがあります。

ボランティアの保護者の方も年々増えてきており、少し離れてキャンプの様子を見ながら食事やお風呂などの準備に一生鶏鳴動いてくれています。キャンプの閉校式の少し成長した子どもの発表姿を見て涙々で一番感動してくれていたようです。

今年も瀬

戸川フォーラムは恒例のあげんだいの協力をしました。瀬戸谷地区の藤太夫島組の人たちと里の楽校のボランティアスタッフ協働で竹取を行い、昨年教わった瀬戸谷地区の流儀であげんだいを制作しました。また、里楽の監事でもあり子どもたちの健康管理に無くてはならない「聖陵リハビリ病院」(宮原)の阿井さんの協力によりたくさんの花火を寄付していただき2年ぶりの瀬戸川(宮原)で盛大に行うことが出来ました。今年の河原は瀬替え(農業用水の取水?)によりいつになく川が蛇行していて、3本のとうろんを一つの州に設置することが出来なく、川を渡って火入れとなりました。

とうろんの設置が一番危険を伴う作業です。一つ間違えばせっかく作ったとうろんが壊れ、設置している人が怪我をしかねません。河原に大きな穴を掘り竹の根本を埋め込み素早く埋め戻ししなければなりません。垂直にとうろんを立てるための調節に先端部につけた突っ張り縄が頼りです。この調節が本当に難しいので「もっと右にいけ〜」などをついつい大声で怒鳴ってしまいます。なんとか無事設置することができ、あとは子どもたちの出番です。今年も怪我もなく無事点火となりました。たくさんの皆様のご協力ありがとうございました。



エノキの巨木(木登り)



元井戸エコアップ



びく石 登山



あげんだい

川のみらい・地域のみらいについて考える情報紙

瀬戸川通信 第24号

発行 瀬戸川フォーラム 平成18年10月14日



瀬戸川 藤枝市峠

瀬戸川クリーン パトロール in 寺島

主催:助宗・寺島町内会 協力 瀬戸川フォーラム

9月17日、24日の日曜日に助宗、寺島町内会の方々とたくさんの川遊び客でにぎわう藤枝市寺島の河川公園(赤坂橋付近)で「瀬戸川クリーンパトロール」を行いました。寺島、助宗地区町内会の男女共同参画推進モデル事業担当の方々と一っしょにゴミ拾いとバーベキューや川遊びの人たちに安全にまた川を汚さないようにと啓発活動をしました。



毎年、春から秋にかけてこの場所は特に若い人たちがバーベキューや水遊び、スポーツに訪れる人が多く、市民の(静岡や浜松方面から来る人も多い)憩いの場所となっています。年々、利用者が増えてきているようです。この流域では朝比奈川なども多くの人が集まります。しかし、川遊びやバーベキュー後の片付けや違法駐車の問題など地域の課題ともなっています。

マナーを守ってきれいに使ってこれからも多くの人や地域の人が気持ちよく利用できるようにと啓発パンフレットやポストカード(山田先生特製のアニミズム写真)を配りました。

多くの若者達が気持ちよく趣旨を理解していただけてクリーン作戦は大成功となりました。

24日には、下流のグラウンドで堀之内地区の町内会でソフトボール大会が開催されていました。若い人から壮年の人まで参加して和気藹々と中には真剣にボールを追いかけ、まとまりの良さが伝わってきました。



今、いろいろな地域では若い人の参加が少なく地区の体育祭やコミュニケーションスポーツが出来なくなっていますが、この地区はうらやましい処です。

さて、瀬戸川クリーンですが、秋も深まり川で泳ぐ姿は無くなりましたが、川での憩いのひとときを得ようとたくさんの人が集まっています。

家族ずれやグループでバーベキューを行っているひとがほとんどですが、子どもたちは食べ飽きたのか遊具で遊んでいます。駐車場、トイレ、子どもが遊ぶ遊具、ゲートボール場、グラウンド(ソフト、グラウンドゴルフ)、瀬戸川、橋の下(雨、直射日光を防ぐ)、木陰と全てそろってこんなに恵まれているところも珍しいところです。

しかし、トイレの清掃、公園の草刈り、ゴミ拾い、河川の管理と利用する人には見えないところでたくさんの人が関わっていることを知ってもらうのが重要なことであり、そのことが最低限のマナーを守ることに繋がるのではと考えました。

24日は、ゴミ持ち帰りのチラシと「瀬戸谷温泉」ゆらく協賛していただき優待付きのティッシュペーパーを配布しました。皆さんもマナーを守ってね!!

瀬戸川フォーラム 2006 (第9回) 開催します!!
平成18年11月12日 9時から
藤の瀬会館 (藤枝市本郷)
「せとや まるかじり」と同時開催

協賛各社

- 藤枝南口タリークラブ
- 黒川医院 菅ヶ谷内科医院
- 青島歯科医院 (株) 松浦恒産
- 岡歯科医院 小柳津久男事務所
- (有) 桑原モータース
- 佐野設計工房一級建築事務所
- 服部歯科医院音羽町診療所
- (株) エクノスワタナベ
- (株) 山田組 大鐘測量設計 (株)

瀬戸川フォーラム ネットワーク団体

- しずおか流域ネットワーク/志太自然ネットワーク
- NPO法人里の楽校/森林組合おおいがわ
- 瀬戸川・朝比奈川非出資漁業協同組合/ふるさと建設の会
- 水土里ネット大井川/志太エコクリエイト/瀬戸川de明想望
- 静岡県島田土木事務所/藤枝市役所/NPO法人VIT
- (社) 藤枝法人会/大井川流域ネットワーク

瀬戸川フォーラムのHPもご覧ください。http://www.ryuikinet.gr.jp/setogawa/
 瀬戸川通信 編集責任者 大井川流域ネットワーク 小田 稔彦
 島田市中央町31-10 TEL0547-36-0706

守りたいのは命、残したいのはきれいな水と空気

田んぼの生き物全員集合 子どもすいすいスクール!

夏休みの8月17日(水)午後から焼津市和田公民館と近くの田んぼにおいて「生き物観察会」(主催:和田地域資源保全組合 協力:瀬戸川フォーラム 協賛:和田公民館、志太榛原農林事務所、水土里ネット大井川)が行われました。

この催しは、地域ぐるみ(農業者、NPO、学校、自治会など)で農地や水を守る活動と環境保全に向けた営農活動を支援する試みとして国の進める事業をモデル的に行いました。

公民館には小学1年生から6年生まで30名が参加し、最初に注意事項の説明を聞いた後、山田先生のお話、うちとけあいゲームのあと、班ごとに分かれ田んぼで増えすぎて困っているジャンボタニシ捕獲や田んぼの生き物探しを行いました。

休耕田の田んぼに子どもたちは大喜びで走り回っていました。日頃、田んぼに入ることなどほとんど無い子どもたちですが、タモをもち泥だらけになってメダカなどを探し回っていました。

公民館の2階では、瀬戸川フォーラム(志太自然ネットワーク、エクノスワタナベ、瀬戸川de明想望)で準備した志太平野の生き物が水槽に集められ、子どもも大人も見入っていました。



8月17日 焼津市田尻において



5月9日 長島ダムにおいて



1971年に外国から食用として持ち込まれたジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)は田んぼの水路などにピンク色の卵を水面から上に産み付けます。お米の苗などを食べてしまう生き物で農家の人も困っています。



活動報告森と湖に親しむつどい「奥大井接岨湖フェスティバル」2006 参加協力!

平成18年7月29日、30日に榛原郡川根本町の長島ダム(メイン会場)で「森と湖に親しむ旬間全国行事 奥大井接岨湖フェスティバル」(実行委員長:川根本町杉山町長)が開催され、瀬戸川フォーラムの山田代表(富士常葉大学環境情報学部教授)がメイン行事の「もりみず守り隊」の隊長として参加しました。

もりみず守り隊は、大井川流域圏(大井川に水が流れ込むところだけでなく大井川の水の恩恵を受ける市町や海も含めて関係する地域)の静岡市、島田市、藤枝市、焼津市、大井川町、吉田町、岡部町、牧之原市、川根本町、川根町、菊川市、掛川市、御前崎市の13市町に呼びかけ集まった子どもたち266名の隊員で構成され、瀬戸川フォーラム(NPO法人里の楽校、大井川流域ネットワーク)がリーダー役となり、5月9日に結成されて活動を開始しました。



5月9日 天狗登場

4月末からの団旗作成からはじまり、5月9日の結成式の企画、運営、参加する小学校の総合学習、子どもフォーラム発表支援など大変ハードなスケジュールの中、部会担当の島田市企画課、NHKプロモーションとの打ち合わせを頻繁に行い、はじめは不安げな子どもたちや先生も大満足なプログラムとすることができました。

7月4日には、266名の小学生が一堂に会する「寺子屋」も開催され、午前中に子どもたちの5月からの活動発表を行い、午後からは大井川での自然体験活動を行いました。一度に266名の参加する自然体験には、国県市町の行政職員もリーダー(研修を事前に企画)として参加し、大変満足する結果となり職員がこのイベントや子ども、自然体験、大井川、水や森に対する気持ちの変化が見られとても有意義な取り組みとなりました。この取り組みにNHKも興味を持ち、全国的に発信する素材として取材して、29日午後から行われた「大人のシンポジウム」でも取り上げていただき、教育テレビで全国放送されました。

天候にも恵まれ、快晴の長島ダムに両日合わせて2万人以上の参加があり、森と水の大切さ、水をはぐくむ森の大切さについて様々なイベント(シンポジウム、子どもフォーラムなど)を通じて参

7月4日 島田市において



加者に感じていただきました。この取り組みを通じて流域の子どもたちが大井川の水の恵みについて学び、守る活動に繋がる「大井川もりみず守り隊」を結成し、様々な学びの中から「大井川流域未来宣言」を提言しました。



7月4日 島田市 寺子屋

29日の子どもフォーラム、30日のクロージングの時に「川根本町立中川根南部小学校 4年の山田君、氣田さん」が中心となり子どもたち全員で発表しました。

「大井川流域未来宣言」
大井川はたくさんの生き物と、美しいふるさとの自然を育てています。
森が清らかで豊かな水を生み出し、川が田んぼや私たちの暮らしを潤しています。
広い流域に恵みを与える大井川の豊かさを、流域のみんなで守らなくてはなりません。
だから、もっと川や森のことが知りたい。
だから、もっと川や森で遊びたい。
そして、もっと大井川のことが好きになりたい。
私たちがリーダーとなって、川の大切さや楽しさを、未来に伝えていきます。大井川が誇らしい川であり続けるよう、みんなで力を合わせて、守っていきます。

「大井川もりみず守り隊」 一同

7月30日 長島ダムにおいて



瀬戸川フォーラムの目的

1. 流域の自然の保全と文化の振興を図る。
2. 流域を中心に活動する市民の交流をすすめ、流域の望ましい姿を考える。
3. 子供たちの健全な成長にとって重要なふるさとの自然や文化に触れる環境や機会を設ける。